

第 11 章 城山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

城山遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の北東 2.6km の荒川低地にある。標高は 6.5 ～ 8.0 m で、新河岸川が遺跡を包むように蛇行していたが、現在は河川改修により遺跡の西側を流れる。遺跡は周辺の水田面より 1.5 m ほど高く、自然堤防上に位置するが、河川改修や耕地整理により、遺跡の面影は消えつつある。

城山遺跡は、江戸時代に編纂された『新編武蔵風土記稿』の福岡村の項に「城山、東方にあり、陣屋跡とも呼ぶ、北より東に続いて二重堀の跡あり、(中略)按ずるに此辺小田原北条氏家人富永善左エ門が領せしことは、村名の条に見へたれば、若くは富永が城蹟なりしや」とある。現地には(たかやま)(いぬ木戸)(湯殿)(屋敷)などの地名が残る。

1965 年に初めての現地測量調査が実施され、1995 年の第 1 次発掘調査が行われ、井戸、土坑、柱穴群などを検出、13 世紀後半～15 世紀の瀬戸美濃産折縁深皿、常滑陶器、土師質皿、板碑等が出土した。2005 年の調査では、南北から東に屈曲する堀跡の一部を検出、常滑の破片が出土している。

II 城山遺跡第 2 地点

(1) 調査の概要

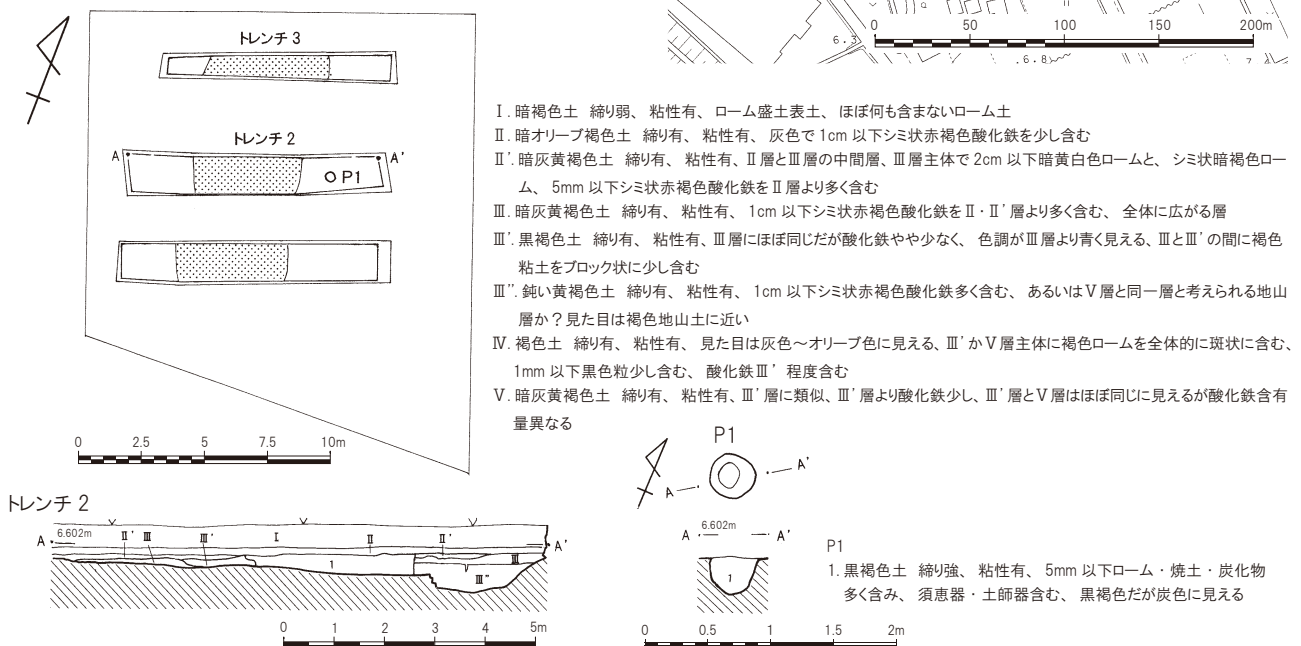
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 6 月 9 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が

市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 7 月 21 日～25 日まで、幅 1 ～ 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

調査の結果、地表面から地山の黄褐色層までの深さは約 60 cm で、時期不明のピット 1 基と土師器片が包含層から出土した。

ピットの平面形態は円形で、規模は確認面径 35 × 33 cm、底径 18 × 16 cm、深さ 30.2 cm である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



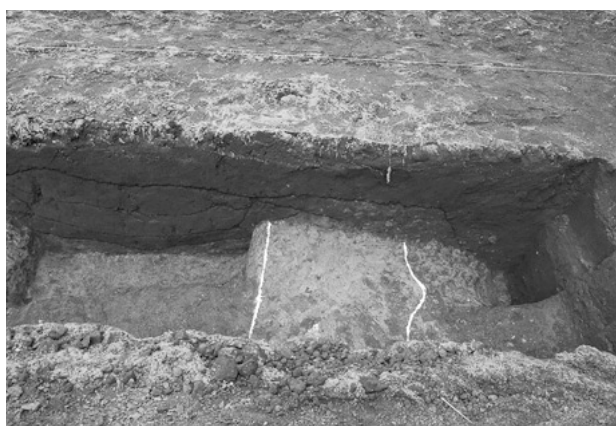
第 51 図 城山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)、遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)



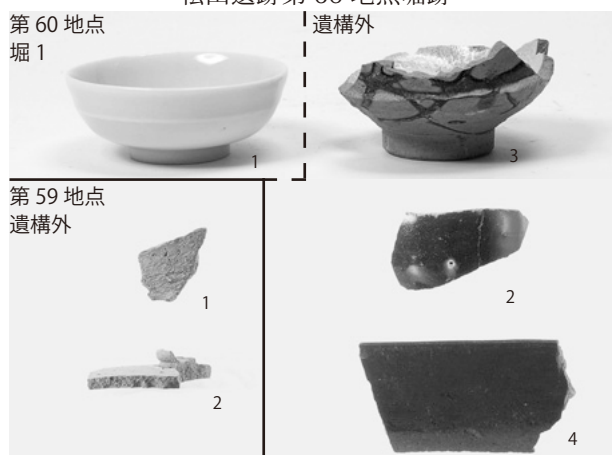
松山遺跡第 60 地点調査風景



松山遺跡第 60 地点堀跡



松山遺跡第 60 地点堀跡



松山遺跡第 59・60 地点出土遺物



城山遺跡第 2 地点調査風景



城山遺跡第 2 地点トレンチ 2



江川東遺跡第 18 地点調査風景



江川東遺跡第 18 地点近景